



図書室：リハビリテーション分野を中心とした医学書を約2万冊所蔵しています。夏休み中も多くの学生が利用し、学びの場となっています。

学院報

学校法人 高知学園
高知リハビリテーション学院

学院報第11号

学校法人 高知学園
高知リハビリテーション学院

平成21年9月1日発行

発行

学院報編集委員会

〒781-1102
高知県土佐市高岡町乙1139-3
Tel 088-850-2311
Fax 088-850-2323
http://www.kochireha.ac.jp/
E-mail:kochi-reha@kochireha.ac.jp



これからのリハビリテーション学院

学院長 中屋 久長

開校四十一年を過ぎ、リハビリテーション専門職の養成校は、当初まったく予想できなかった状況になってまいりました。

理由は種々あるが、何と言っても超高齢社会、リハビリテーション医療の重要性高揚、少子化による十八歳人口の減少に伴う大学、専門学校の定員割れに対応し、比較的人気の高いリハ分野の学部、学科の新設ブームなどである。本学院も少なからずその影響を受けている。伝統と歴史を誇り、常にリーダーシップを保ってきた本学院もこの大きな波に呑み込まれそうな状態にある。

前回記したように四十一年目の「新しい展開」を考える上で、大学とは、専門学校とは、短期大学とは：学校種別による目的の整理が必要と考える。

学校教育法【第一条：この法律では学校とは小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、大学、高等専門学校、盲学校、聾学校、養護学校および幼稚園とする。】とある。第五十二条には【大学は、学術の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授・研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させるということを目的とする。】とある。卒業者は学士の学位が授与される。短期大学は、第六十九条の二に【大学は、第五十二条に掲げる目的に代えて、深く専門の学芸を教授・研究し、職業又は実生活に必要

な能力を育成することを主な目的とすることが出来る。】としている。卒業者には短期大学の学位が授与される。

専門学校は、同法七章の二に位置付けられ、第八十二条二として【第一条に掲げる以外の教育施設、職業若しくは実生活に必要な能力を育成し、又は教養の向上を図ることを目的とする。】専修学校には高等課程、専門課程、一般課程があるが、リハ専門職は高等学校卒業以上の専門課程に属する。

三年制専修学校卒者は専門士を、四年制卒者には高度専門士の称号が授与され、直接大学院への入学が可能となっている。

リハビリテーション医療従事者（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）は、「プロフェSSIONナル」であり、専門職業教育（Professional education）を必要とし、大学水準の教育と徹底した職業に必要な技術と態度の習得の職業教育（Vocational education）が必要で、どの職種も職業教育に連続した専門職業教育の確立が望ましい。昨今は、大学、短期大学そのものが職業教育化してきていることもふまえる必要がある。

本学院は開校当初より職業教育、専門職業教育を連続することを目標としてきたが、現在の社会情勢を鑑みると、いずれかの方向を決断すべき時期と考える。



オープンキャンパス体験授業



理学療法学科 片山 訓博

高知リハビリテーション学院では、本年度のオープンキャンパスの中で理学療法学科・作業療法学科・言語療法学科をより理解していただくために体験授業を開催しました。内容は、各学科に入学後の授業内容に即したもののから専門性をより求めたものまで幅広く行いました。私が担当したテーピング講座には、定員の三十名をはるかに超す参加者でした。テーピングの部位は手関節でしたが、「関節が固定性された」などの感想があり、テーピングによる傷害の予防などの効果を実感していただきました。私としても、日常の授業とは全く違った緊張感があり、生徒さんなど参加者の反応を見ながら、進行に工夫を凝らしました。三十分の体験授業はあつと言う間に終わってしまいました。



作業療法学科 平松 真奈美

作業療法学科では、「生活の中のリハビリテーション」作業療法について「自分を知ろう」「エゴグラムの実践」、「福祉機器って何?」「らくらく介護方法を試してみよう」、「高齢者の困りごとと模擬体験で学ぼう」のテーマを取り上げました。約三十分という短い時間ですが、性格傾向を知るテストや福祉機器を使った介助、高齢者の見えにくさや聞こえにくさなど、どの授業も講義だけではなく実際に体験してもらいました。多くの参加者の皆さんに「なるほど!」「ホントだ!」と実感してもらったことができて、福祉機器を使った介助に関する具体的な質問や「興味を持てた」などの感想もたくさんありました。作業療法のおもしろさが、少しは伝わったのだと思います。



言語療法学科 本田 梨佐

今回、言語聴覚療法の対象の一つである嚥下障害に焦点をあて、「食べにくいってどんなこと?」というテーマで授業を実施しました。食事やおやつなど「食べる」ことは、普段の生活の中で、最も楽しい行為でもあり、「食べにくくなる」ということは、とても辛いことです。授業の内容は、言語療法学科三年次生の三名に協力してもらい、まず「食べる」行為の仕組みや障害について説明し、嚥下障害を発見する簡単な検査法を紹介しました。三十分という短い時間の中でしたが、皆さん、真剣に話を聞いて下さり、検査の実技にも真剣に取り組んで頂くことができました。授業後には質問もありました。今回の授業を通じて、少しでも「食べる障害」や「言語聴覚士の職域」について理解してもらい、言語聴覚士に興味を持ってもらえればとても嬉しく思います。

学生生活について

理学療法学科一年 山本 澤

入学して半年がたち学校の雰囲気にも慣れ、生活のリズムもリハでの授業や体制に合わせ変化してきたように思います。高校と違ってリハでは一日にいくつか空きコマがあり何も知らなかった入学当初は少し戸惑いましたが、今ではその時間を使って調べ物をしたり予習復習をしたり友達同士で体を動かしたり有意義に過ごしています。

教室の配置が学年ではなく学科ごとに分けられていることもあって、先輩との交流が非常に盛んです。「コンパ」と呼ばれる伝統行事もあり、飲み物の注ぎ方や目上の人との会話の仕方など、社会に出てからの勉強もさせてもらっています。学校ではたくさんの先輩方が声をかけてくださり、わからないところを聞きにいくと優しく丁寧に教えてくれます。

私がリハでの生活で感じたことに、学校中に挨拶が溢れているという事と休日でも学校に來ている生徒が多いという事があります。それはそのまま勉強の難しさや大変さに繋がっているのですが、私達にとっては生活・勉強すべてにおいての先生がたくさん、かつ身近な所にくれているという事です。そういう当たり前に感じるリハでの強みを生かしながら立派な理学療法士になれるよう、一日一日努力していきたいです。

作業療法学科二年 岡林 成美

私は、一年前の入学時、親しい友人や知っている先輩もいなかったため、学院生活に不安を感じていました。入学してからは、レクリエーション大会やよさこい祭り、学院祭といったイベントがあり、それら行事を通じて、クラスの仲間と打ち解けることができました。現役の学生だけではなく、社会人経験の方もいるので、学校の授業だけではなく、人生の経験を生かした話などを聞けることがとても楽しいです。クラスメイトだけではなく、先輩との交流を深める授業や交流会、卓球、バ

ドミントンといったサークル活動にも参加しているため、先輩は勿論のこと、他学科の学生とも交流が持てます。

学習面では、苦手の授業もありますが、自分の体について理解できるような授業もあり興味深く聴講しています。医療系のドラマに出てくる言葉が理解できるようになった時より面白く見ることが出来る、とても嬉しいです。また、グループワークでの授業もあり、みんなと話し合っ理解を深めながら学んでいます。

入学して一年経過しましたが、これから専門的な授業もふえるため、より一層勉強を頑張っていきたいです。今では入学時に抱えていた不安は全くなく学院生活は充実しています。

言語療法学科三年 堀川 絢加

高知リハビリテーション学院言語療法学科に入学し、早くも三年が経ちました。

学生生活の中では、不安なことの反面楽しいこともたくさんあります。例えば、休み時間や授業がない空き時間、昼食時などの時に友達や先輩方や先生方との会話がとても楽しく、毎日充実しています。また、学校の行事のレクリエーションや学祭などのような時は、クラスのみならず一致団結して一つのことをやり遂げることができて、毎年良い思い出になっています。言語療法学科だけでなく、他学科にもたくさんの友達ができ、勉強の内容なども聞き、良い経験になっています。

特に、三年次では臨床実習の準備として、専門知識に加え検査演習、コミュニケーション能力を養うために日ごろから言葉遣い、表情の作り方なども先輩や先生方から多くのことを学んでいます。これからは、クラス全員で少しずつ経験を積んで、将来出会う患者さんにとってよりよいアプローチができるように、残りの学生生活を積極的に行動し、一生懸命勉強していきたいと思っています。

研修講座について

作業療法学科 大塚 貴英

六月二十八日(日)、「ハンドセラピー(手の外科領域のリハビリテーション)」をテーマに、第二十一回日本ハンドセラピー学会会長の仲木右京先生をお招きし、卒業生や臨床実習でお世話になっている施設の作業療法士等を対象とした、研修講座を開催しました。

当日は、四国内外から三十二名が参加し、講義や症例検討、スプリント(装具)作成実習など、臨床の場ですぐに応用できる知識と技術を学ぼうと、熱心に取り組んでいました。作業療法士の臨床の場では、試行錯誤しながらも、対象者の方と向き合っています。卒業したら教育は終わりというものは無く、卒業後も学院とのつながりを持ち、自己研鑽の手助けを行うことも、私たち教職員の役割です。

今後も、作業療法の質の向上に向けた研修

講習会「上肢機能へのアプローチ」の開催を終えて

作業療法学科 石元 美知子

七月十一日(土)本院にて、誠愛リハビリテーション病院副院長(OT)林克樹先生に「脳卒中片麻痺上肢機能へのアプローチ」について講義及び実技指導をしていただきました。林先生はOT学科1期生から高次脳機能障害や中枢神経障害のOTについて教えていただいています。場所の都合上七十五名の参加でおこないましたが、四国四県の病院から百名を超す応募があり関心の高さが伺われました。講義は脳生理学からアプローチを考えるという内容で、脳の構造や機能についてしっかり学び、また実技では明日からの臨床に取り入れるようにと受講者同士熱心に取り組んでいました。卒業生も多く参加しており、卒業後教育の場として今後も行っていきたいと考えます。



講座を企画し、実践力のある作業療法士教育を行っていきたくと考えています。

幼稚園児 訪問について

言語療法学科 吉村 知佐子

六月二十二日、本学に高知幼稚園の年長クラス約四十名が、タッキー号(赤い通園バス)に乗って、遊びに来てくれました。言語療法学科では、年三回程度、高知幼稚園児と交流をはかっています。園児たちが、何をしたら喜ぶか学生は約二カ月間、授業の空き時間を利用して、一生懸命考え、そして緊張しながら当日を迎えました。



図書室だより

依光 朋子

高知リハビリテーション学院には、学生の皆さんの学習をサポートするため図書室職員がいます。図書館に常駐している図書館司書の仕事とは、どのようなものかご存知ですか? 皆さんが真っ先に思い浮かぶのは、やはり本の貸出・返却といったカウンター業務でしょうか。もちろん、この仕事も大切な業務ですが、図書館司書の仕事は、実はずっと多種多様なのです。

図書館にも色々種類があります。(公共図書館・学校図書館等) どの図書館でも基本の仕事といえるのは、資料の整理や収集、利用者の質問への回答(レファレンスといいますが)などです。高知リハ図書室では、リハビリテーション専門の資料を扱っているため、レファレンスは専門的な質問ばかりとなります。司書は、利用者が必要としているものがどの本に載っているか、どの辺にあるかを回答します。そのためにも、出来るだけ資料のことを把握しておかなければなりません。資料を棚に並べるまでに、本の選定、登録、装備などの過程があります。本にはそれぞれデータがあるので、本の情報を登録し、管理しています。図書・雑誌の所在情報を検索できる Webcat Plus サービスでは高知リハの所蔵が確認できるようになっています。本が棚に並ぶと、整理作業が常になり必要となります。本は決まった順番通りに並んでいます。利用した時に元あった場所に戻されていないと、次の利用者が必要な時に利用できないという困ったことになるので、所定の位置に並んでいるように、きちんと整理しておくという訳です。この他にも、他の図書館とのサービスのやり取り、広報活動など図書館ごとに様々な仕事があると思います。

図書館司書は、利用者のお役に立てるよう、要望にこたえられるような図書館になるよう日々励んでいます。少しでもお手伝いできたかと思っているので、気軽に相談してください。

最後に、司書ってどんな人かというところ、やっぱり本が好きで、意外と接客業な人とのコミュニケーションも好きで、調べ者好きな人なのではないかな... と思っています。

劇や絵本の読み聞かせをしたり、ボールプールに入ったり、ハンモックに乗って一緒に遊び、また、食堂で、昼食と一緒に楽しく食べました。

学生は、普段、子どもの発達の理解、関わり方等机上で勉強していますが、実際に子どもに接して学ぶことの大切さと楽しさを体験できたと思います。

後日、園児がかわいい絵とありがとうと書いた手紙を頂きました。また、一緒に交流できる機会が欲しいと多くの学生から話がありました。



レクリエーション大会



レク大会実行委員長

理学療法学科二年 松坂 篤

夏も終わり、秋風漂う中皆様いかがお過ごしでしょうか。

二十一年度のレクリエーション大会では、中屋学院長の挨拶から始まり、準備体操、バレーボールやバスケットボール、ソフトボールなどの球技を行いました。前回まではレクリエーションの最後を飾る綱引きがありましたが、今回は少し変えていこうとの意見があったためレクリエーション委員を全員集めて委員会を開いた結果、PKという新たな競技に変わりました。最初PKは女子には少し不利なのではないかという反発もあったが、いざ、レクリエーション大会が始まると、活気と笑顔で満ち溢れており、レクリエーション大会が終わるまで気を抜けないレクリエーション大会でしたが、例年以上の良いものが出来たと感じました。今回のレクリエーション大会に関係してくださった、レクリエーション委員の皆、そして協力してくださった先生方に改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

野球部 全国大会に向けて

野球部顧問 有光 一樹

昨年度に高知県で行われました第四十九回職場早起き野球大会に参加し、百八十三チームの頂点にたった末、平成二十一年十月十日～十二日にかけて行われる、第二十九回全日本早起き野球大会の出場権を獲得しました。今年度のチームは、昨年度に佐賀県で行われました高松宮賜杯二部の全国大会決勝で苦しい思いをした経験に胸に、高知県の国体予選を全員で勝ち上がるほどのチームにま

で成長しました。学業が本業のため、週に一度の練習と環境面で大きなハズレはありますが、野球にかける情熱と根性は相当なものです。また試合を重ねる度に、選手達はチームワークを深め、声を掛け合い、強くなります。今年度こそ悲願の全国制覇を実現したいと思います。是非、応援の程よろしくお願いします。



第56回 よさこい祭りに参加して

重島 晃史

高知リハビリテーション学院（以下、高知リハ）は今年で三十九回目の参加となりました。五十六回というよさこい祭りの歴史の中で、三十回以上出場しているチームは百八十三チーム中二十五チームと少数であり、出場チームとしては老舗であります。

本年度は初めて高知リハが主体となってチームを作り上げました。テーマを「絆」とし、横だけでなく縦の繋がりも大切に交流していくという趣旨のもと、一年次生だけでなく上級生や卒業生からの協力も得て、衣装デザイン、音楽、振り付けなどの製作に当たってきました。本祭まで戸惑いや不安は尽きなかったですが、よさこい委員である学生が同級生を積極的に引っ張り、当日は大きな声を出して元気よく舞い踊っていました。また、教職員や業者さんの協力体制も万全であったおかげで、無事幕を閉じることができました。三十九回出場という誇りを胸に、今後も学生が主体となって楽しめるよう努力していきますので、応援の程よろしくお願い致します。



知つとつせ

《それから第10回の巻》 教育の精神

ちよつと難しい言葉ですが、教育学では教育の理念の三要素は「認知」「情意」「精神運動」であるとされま

す。この三つの言葉を言い換えること「知識」「態度」「技能」ということになるのですが、これらを上手く絡み合わせて学生に教授していくのが、専門学校での教育の役割ということになります。

学習で深めていきます。そして、「技能」は学院内での実習授業や病院での臨床実習において習得されていくものであり、経験を積み重ねることで習熟していきます。さて『態度』ですが、これは特に、医療人としての自覚を持つことから始まると思います。卒業後に医療者として就業したら、患者さんや障害のある人を対象として診療や指導にあたるわけで、人間性・倫理観・使命感などを持ち合わせている必要があります。学院内での授業以上に臨床実習でスーパーバイザーから指導を受け、気付き、学び取っていくのも一つであるかも知れません。

（教務部 山本）

学院祭のお知らせ



学祭委員実行委員長

作業療法学科三年 坂本和弥

今年も高知リハビリテーション学院の一大イベント、学院祭の季節が近づいてまいりました。本年度の学院祭は十月の十一、十二日に開催いたします。今年の学院祭では、毎年恒例のオープニングの餅投げをはじめ、豪華景品のビンゴ大会や、宝探しなど、地域の方々

も自由に参加できる催しを取り揃えています。また、クラス自慢や筋肉番付、カラオケ、仮装大会やバンドのライブなど学生が中心になって行うイベントや、学科紹介などがあります。屋台では、焼き鳥、から揚げ、焼きそば、フリーマーケット、クリウムソーダなど、豊富なバリエーションを取り揃え各クラスで企画しております。外部からは、商工会、土佐苑作業所土佐、つくし作業所、婦人会などの方々に参加していただきます。ここでは学生の屋台とはまた一味違ったものを楽しんでもいただけると思います。例年同様、実行委員会を中心に企画を進めております。生徒、教職員はもちろんのこと、地域の皆様にも楽しんでいただけるような企画を、学院祭実行委員一同一丸となって準備しております。ぜひ皆様でお誘い合わせのうえご来場されます事を心よりお待ちしております。

全国で活躍する卒業生シリーズ⑪

在学生へ贈る卒業生の思い

大阪保健医療大学 保健医療学部
リハビリテーション学科 理学療法専攻 准教授
野村 卓生



平成二十一年四月から大阪市天満に開学した「大阪保健医療大学」に勤務しています理学療法学科二十二期生の野村卓生と申します。現在、大学の基礎づくり、一年生から始まる教員完全帯同型の臨床実習などの調整で忙しい毎日を送っています。

先日、卒業研究の担当教官として大変お世話になりました酒井寿美先生から、身分不相応ながら学院報「活躍する卒業生」の執筆依頼を頂き、多くの先輩たちの中恐縮ですがご指名ですでお引き受け致しました。今回、在学生へ対してのメッセージをということで依頼頂きましたので、学生時代を含め十四年間の振り返り卒業生としての思いを伝えます。

学生時代には気づくことができなかったのですが、学院の先生方と卒業生のご尽力により在学生は多くの恩恵を受けています。学院の先生方が日々行ってくれる授業に加えて、第一線で活躍する卒業生が外来講師として行ってくれる講義や実習も多く受けることができ、臨床の最前線、最先端のリハビリテーション科学の情報にも触れることができます。養成校が乱立する現状でも、全国各地に臨床実習施設が確保されているのは学院の先生方と卒業生のご尽力あつてのことです。また、就職活動が円滑に進むように全国で活躍する卒業生が応援してくれています。

なぜこのような恩恵を在学生は受けることができるのでしょうか。学生時代に手厚いご指導を頂いた先生方が現在もお学院で教鞭をとられ

博士(学術)、日本糖尿病療養指導士

ていることはもちろんのことですが、自分たちが学び志を得た「高知リハビリテーション学院」が誇れる宝物だからです。在学生は、卒業生の思いに恥じぬ行動をとって欲しいと切に願います。そのために以下の「三つの大切さ」を在学生に伝えたいと思います。

一、努力する大切さ
二、人の話を素直に聞く大切さ
三、人間関係を築く大切さ

養成校も随分と増えてきています。現場ではどの大学・専門学校を卒業したのが重要ではなく養成校でどれだけ一生懸命勉強し、就職後も勉強を続けているかが問われます。その養成校に合格したにせよ入学してから弛まぬ努力が大切です。また、社会人として熟成するために学院の先生方、実習地でお世話になる先生方のご指導を素直に受け入れてください。最後に、まだ実感できないと思いますが学院を中心に広がる卒業生の繋がり(助け合い)が非常に大切です。心に刻み込み行動してください。

在学生は卒業生の思いを胸に留め学院生活を送ってください。卒業後十年目の若輩者が偉そうに意見させて頂き申し訳ありませんが後輩を思うがゆえの親心です。皆様が未来を担うリハビリテーション技術者として羽ばたかれることを期待しています。

土佐市探訪⑥

お弥勒様(おみろくさま)

仁淀川大橋の南詰、土佐市街と宇佐方面への分岐の三差路の北側に「おみろく様」という小さな神社があります。この「おみろく様」の由来は、神社の前に建てられている百年祭の碑に明治三十二年七月八日の台風により仁淀川の堤防が決壊、その時、国則盛吾家の畠に小さな「社」が流れ着き、以後国則家の氏神として祭事を行う。その後家族にいびらが多く出ていたが実家に祭っている御神体が仁淀川近くで祭ってほしいとのお告げがあり、明治三十四年十一月五日現在地に社屋を作り祭事を行う。これが「おみろく様」の神社としての創建である。いびらも平癒した、それ

により「いびらの神様」として信仰を集めるようになったとある。(いびらとはおできのこと)つまりおみろく様は国則家の私的な神社だったのです。以来おできに限らず病氣平癒を願う人々のお参りが絶えず、その評判は全国区ものとか。小さな境内には病氣平癒のお札に奉納された木の鳥居がずらりと並び、これもお札に奉納された蛙の置物が山積みになっており、この小さな境内は街路の喧噪の中にありながらなにか不思議な空気がただよっています。

なおこの「おみろく様」現在は国則家の私的な神社ではなく氏子会により運営されているとのこと。

